

二〇一六四

南政務部 三

副長 部員

林

堀

森

経理局長

才十課 局長

香

川

野

島

興南林業株式会社増資幹旋一件

南ホノホオ バリパン地区ニ於テ伐木製材事業担当ノ首題商社ヨリ副款ノ通増資申請アリタル也 母並ニ認公ニ行幹旋ノエトト致度

註

一 現在ノ資本金額

一九八 十月

二 資本増加ノ金額

六〇二

(親物出資)

三 資本増加後ノ資本金額

二五〇〇

40
267

増資ノ理由

東南林業ノ設立経緯

(1) サラヤ、バリ、パパン地区伐木製材業受命、大東振興株式会社
ノ下請トシテ進出セル北陸組(北陸方面製材業者ノ結成セル
任意組合) 大東振興ヨリ分離独立シ、バリ、パパンノ事業ヲ

担当

(2) 北陸組ハ法人化ニ爲シ解散セントスル一株式会社ノ権利ヲ
譲受テ北陸組ノ権利義務ヲ継承、東南林業株式会社
ト改稱、正式ニ大臣指令ニ依リ企業担当者トナシ

先此

北陸組ノ現地財産ヲ資本ニ参加セシメ増資セントスルニテ
東南林業ノ現地事業ハ、バリ、パパンノ事業ノ現地財産ヲ目下中止
シ、已ニテ解散トナラレモ、如キモ現地財産ハ戦時保護ノ全額

海 堀

附保セル人ナルヲ以テ同財産ヲ現物出資トスルハ、補環其地債ヲ
一部被害スルトモ不為ヤルモト認ム
且、現物出資トシテ既存価格ニ一應不為ナラス

昭和二十七年五月三十一日

富山県北陸組
木舟町五拾七番地
株式會社
取締役社長 脇坂



海軍省南方政務部
御 中

資本増加ニ關スル件上申

南ボルネオ・サマリンダニ於テ企業擔當ノ指令ヲ受ケ居タル大東振興株式會社ト共同シ伐木製材企業ノ一部門ヲ擔當シ來タル北陸組（富山縣、石川縣ヲ主体トシタル舊木材業者同志二十六名ノ任意組合）ノ熱誠ナル努力ヲ御當局ノ認メラル、處トナリ昭和十八年八月バリツクパンニ進出獨立企業ノ軍命ヲ拜シ之ガ事業ノ經營ニ當リ來ル本事業ノ強力化ヲ圖リ北陸組員ヲ以テ法人化セントシ昭和十八年十二月興南

林業株式會社ヲ設立シ事業ノ完遂ヲ期シ努力シ來リタリ
偶昭和十九年七月十八日海軍大臣ヨリ正式企業擔當者御指令ヲ與南林業株式會社命ゼラレ其ノ建設ニ精進セルトコロ内外共ニ御當局庇護ノ賜ニヨリ稍開發ノ緒ニ着クコトヲ得候茲ニ於テ母体タル現地北陸組所有物件ヲ現物出資セシメ包括承繼シ生産機能ノ刷新向上ヲ圖リ銳意專念戦力化ニ即應スル素志ニ有之候條此儀御許容ヲ賜リ可然御援護ヲ奉願上度書類相添へ此段及上申候也

海-0008

0237

資
本
増
加
認
可
申
請
書

海-0008

0230

資本増加認可申請書

一、會社ノ住所及商號又ハ名稱

富山縣高岡市木舟町五拾七番地

興南林業株式會社

二、會社ノ現在ノ資本金額

拾九萬八千圓也

三、資本増加ノ金額並ニ第一回ノ拂込ノ時期及金額

六拾萬貳千圓也 全額現物出資

四、資本増加ノ方法

株數増加 一株額面五拾圓 壹萬貳千四拾株

五、資本増加ヲ必要トスル事由

南部「ボルネオ・サマリダ」ニ於テ木材開發並ニ製材企業擔當者タル大東振興株式會社ト共同ノ本ニ伐木、製材企業ノ一部門ヲ擔當シ之ニ協力シ來タ北陸組（富山縣、石川縣ノ舊木材業者ノ同志二十六名ヲ糾合シ任意組合ヲ結成シタルモノ）ノ熱心ナル努力ガ御當局ニ認めラレ昭和十八年八月南部「ボルネオ・

バリツクババン」ニ進出シ製材工場獨立經營ノ軍命ヲ拜シタルヲ以テ直ニ事業設備ヲ新設シ銳意製材軍納ニ努力シ來レルモ本事業ノ重要性ニ鑑ミ將來益々之ガ強力化セントスル目的ノモトニ此際法人組織ニ改メ以テ基礎ノ確定ヲ計ラント昭和十八年十一月五日當時木材業ノ企業整備ニ依リ解散手續中ノ高岡合同木材株式會社（資本金拾九萬八千圓、一株額面五拾圓、參千九百六拾株、第一回拂込拾貳圓五拾錢拂込済ノモノ但シ昭和十九年二月五日未拂込參拾七圓五拾錢徴收拂込済）ノ權利ヲ讓リ受ケ茲ニ興南林業株式會社ト改稱シ昭和十八年十二月北陸組ノ權利義務一切ヲ繼承シ事業完遂ニ努力進進シ來レリ其後昭和十九年七月十八日附官房南機密第一五號ヲ以テ南部「ボルネオ」ニ於ケル木材開發並ニ製材企業擔當者トシテ正式ニ委託セラレ茲ニ獨立ヲ以テ國家的重大使命ヲ負フノ光榮ヲ得タリ

茲ニ於テ母体タル北陸組ノ現地事業ノ財産一部（六拾萬貳千圓）ヲ現物出資セシメテ資本ノ増加ト事業設備ノ擴張ヲ計リ以テ計畫目標ノ達成ニ努メ國家ノ要望ニ報イントスルモノナリ。

六、資本増加ニ依リ調達スル資金ノ使途
現物出資ニヨル事業設備ノ擴張
七、資金ガ事業設備ノ新設、擴張又ハ改良ノ爲ニ使用セラル、モノナ
ルトキハ之ニ關スル計畫及其ノ豫算ノ大要並ニ資金ノ調達方法
別紙

右資本増加ノ件臨時資金調整法第四條ニ據リ御認可相受度此段申請候
也

昭和十九年五月三十一日

富山縣 木舟町五拾七番地
興 株式會社
取締役社長 坂



大藏大臣 廣 瀬 豊 作 殿
軍需大臣 豊 田 貞 次 郎 殿

事業設備擴張計畫要項

一、事業設備擴張ニ關スル計畫ノ大要

設備計畫名 製材企業設備ノ擴張

一場所 南部ボルネオ・パリックババン

二敷地

區分	地目	地積	單價	整地費格	借入(又ハ借入)先	備考
土地整地費	原野	三三二、二四四	一、二二二	三九、三四〇	北陸組	
計		三三二、二四四	一、二二二	三九、三四〇		

三建物

區分	種別	延面積	單價	價格	主要資材ノ入手方法及	備考
既存讓受分	事務所	平方不 四〇	二〇、〇〇〇	八〇〇圓		
	増邦人住	三六二	二〇、〇〇〇	七、二四〇		
	製材工場	一、八四二	四〇、〇〇〇	七三、九二〇		
	共同炊事場	五四〇	一〇、〇〇〇	五、四〇〇		
	倉庫	一、四四〇	一〇、〇〇〇	一四、四〇〇		
	苦力宿舎	一、七七〇	一〇、〇〇〇	一七、七〇〇		
	鐵工所	一二〇	一〇、〇〇〇	一、二〇〇		
計				一二五、七六〇		

四機械

區分	種別	品名	數量	價格	主要資材ノ入手方法及	備考
既存讓受分	原動機械	アゼルエンジン 外六	一〇	八九、三五〇圓		
	加工用機械	製材機械	一一	二〇七、三〇〇		
	其他ノ機械設備	一式	一〇	一七、二七〇		
	器具	丁真其他一式		三三、〇〇〇		
計				六一四、〇一〇		

五其ノ他ノ経費

該當ナシ

六年間生産高(又ハ加工收入)

品名	現在		本計畫ニ依ル増加		納入先備考
	数量	金額	数量	金額	
造船材料含 △ 製材品			二四、〇〇〇 立方米	八四〇、〇〇〇 圓	軍納
土木建築諸 項			一二、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	
計			六、〇〇〇	一、〇九〇、〇〇〇	

七所要運轉資材及電力(一ヶ月分)

品名	現在ノ所要数量		擴充ニ依ル増加		入手先備考
	数量	金額	数量	金額	
燃料			一、四〇〇 リットル		
素材			二、〇〇〇 立方米	現地	
計					

八着工及竣工豫定時期

既存設備ノ給付ヲ受クルモノニシテ該當ナシ

二、本件計畫豫算ノ大要並ニ資金調達方法

支出区分	總額		自己資金		借入金		其ノ他	
	昭和十九年度	第四年季	計	借入金	其ノ他	備考	現物出資	
	六〇二、〇〇〇 圓	六〇二、〇〇〇	六〇二、〇〇〇		六〇二、〇〇〇 圓			
		六〇二、〇〇〇			六〇二、〇〇〇			
		六〇二、〇〇〇			六〇二、〇〇〇			

三、事業設備ノ擴張ヲ爲サントスル事由

昭和十九年七月南部「ボルネオ」ニ於ケル木材開發並ニ製材企業
擔當者トシテ正式ニ海軍省ヨリ委託セラレタル處現在ノ事業設備
ニテハ到底豫期ノ成果ヲ期シ難キヲ以テ茲ニ急速ナル事業設備ノ
擴張ヲ計リ以テ國家ノ要望ニ報イントスルモノナリ



北陸組興南林業株式会社
現地代表 森田芳次郎

右申請ニ係ル現物出資財産目録ニ關シ實地調査ノ結果別添申請書ノ通
タルコトヲ認ム

昭和十九年九月五日

ホルネ才民政部バリツタパン州知事廳
州知事 後藤眞三 男

印

昭和十九年九月三日

北陸組
現地代表 森田芳次郎

パリツクバパン州知事 殿

證 明 御 願

北陸組ハ南ボルネオ・パリツクバパンニ於テ別紙「北陸組現物出資財産目録」記載ノ財産ヲ所有シ各財産ガ夫々右目録記載ノ如キ價格ヲ有スルモノナルコトヲ御證明賜ハリ度ク此段及御願候也

現物出資財産目録

北陸組
現地代表 森田芳次郎

海-0008

0245

北陸組現物出資財産目録

一、土地整地費	三九、三四〇、 ^盾 八〇
一、建物	一二五、七六〇、〇〇
一、機械其他ノ設備	三一三、九二〇、〇〇
一、器具	一三五、〇〇〇、〇〇
總計	六一四、〇二〇、八〇

右現物出資財産ヲ以テ六拾萬貳千圓ノ増資額ニ充當スルモノトス

北陸組現物出資財産目録明細書

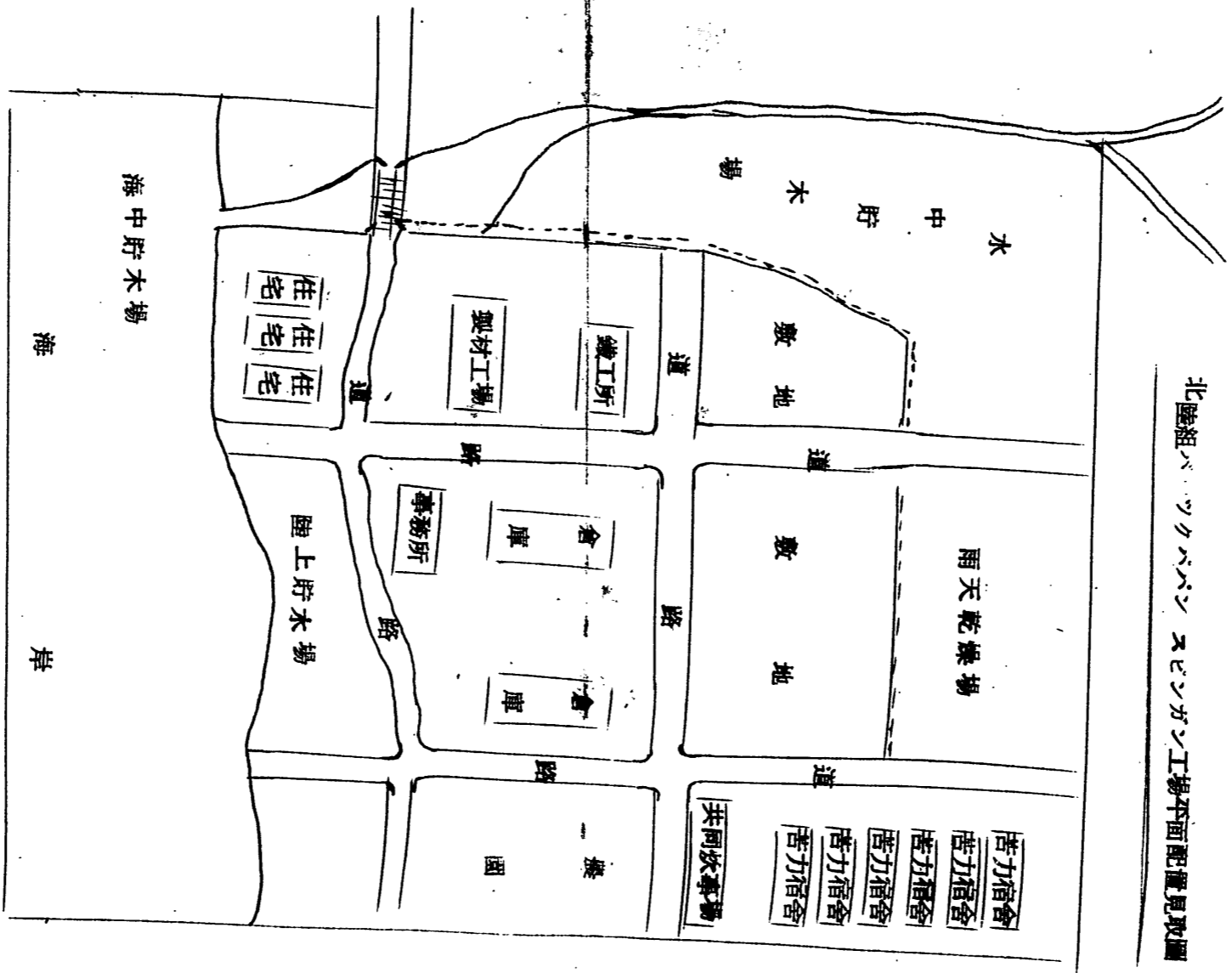
土地整地費	用途	所在地	地目	地積	単價	金額	摘要
	工場敷地	パリツクハバン スピガン	原野	一、六八〇 平米	七〇 盾	一、一七六、〇〇	整地費
	倉庫敷地	〃		二、一六〇	七〇	一、五二二、〇〇	
	事務所敷地	〃		四〇	七〇	二八、〇〇	
	宿舍敷地	〃		二、九六四	七〇	二、〇七四、八〇	
	材料置場	〃		一、五〇〇	七〇	一、〇五〇、〇〇	
	道路	〃		一、二〇〇	五、〇〇	六、〇〇〇、〇〇	
	財水池堀下	〃		二、七〇〇	五、〇〇	一三、五〇〇、〇〇	
	其ノ他	〃		二〇、〇〇〇	七〇	一四、〇〇〇、〇〇	
	計			三三、二四四		三九、三四〇、八〇	

建築物	種別	構造	棟数	平積	単價	價	格	摘要
事務所	邦人住宅	木造アタツ	三	一六二	二〇	三、二四〇、〇〇	〃	スピガン
	事務所	木造アタツ	一	四〇	二〇	八〇〇、〇〇	〃	スピガン
	同	木造アタツ	一	一七〇	三〇	五、一〇〇、〇〇	〃	パリツクハバン
	同	木造シラツ	一	二〇〇	二〇	四、〇〇〇、〇〇	〃	〃
	製材工場	木造アタツ	一	一、八四二	四〇	七三、九二〇、〇〇	〃	スピガン
	共同炊事場	同	一	五四〇	一〇	五、四〇〇、〇〇	〃	〃
	倉庫	同	二	一、四四〇	一〇	一四、四〇〇、〇〇	〃	〃
	苦力宿舍	同	六	一、七七〇	一〇	一七、七〇〇、〇〇	〃	〃
	織工所	同	一	二二〇	一〇	一、二〇〇、〇〇	〃	〃
	計		一七	六、二八四		一二五、七六〇、〇〇		

機械其他ノ設備	分類	機械名	式機能	数量	単價	格	摘要
	原動機械	ディーゼル エンジン	一五〇馬力	一	四、五〇〇、〇〇	五、四〇〇、〇〇	摘要

器具小計		其他機械設備		加工用機械	
器具	小計	其他機械設備	計	加工用機械	計
焼玉エンジン	四五馬力	ボール盤	五呎	製材機械	六〇吋帶鋸 自動台車付
ターセルエンジン	三〇〃	立機	大	ガソリン	二五〃
焼玉	一五〃	丸鋸目立機	中	〃	四〃
〃	八〃	接合機	〃	〃	〃
〃	三、〇〇〇	ロール機	〃	〃	〃
〃	一、六〇〇	横切機	五呎	〃	〃
動力用ウインチ	三、六〇〇	動力用ウインチ	五噸卷	〃	〃
ウインチ	一、八〇〇	ウインチ	〃	〃	〃
直結水揚ポンプ	三五〇	直結水揚ポンプ	〃	〃	〃
工具其他一式	六、一四、〇二〇、八〇	工具其他一式	〃	〃	〃
	一三五、〇〇〇、〇〇		〃		〃
	三三三、九二〇、〇〇		〃		〃
	一七、二七〇、〇〇		〃		〃
	七〇〇、〇〇		〃		〃
	一、八〇〇、〇〇		〃		〃
	三、六〇〇、〇〇		〃		〃
	一、六〇〇、〇〇		〃		〃
	一、二三五、〇〇		〃		〃
	九八五、〇〇		〃		〃
	五五〇、〇〇		〃		〃
	三、三〇〇、〇〇		〃		〃
	三、五〇〇、〇〇		〃		〃
	二〇七、三〇〇、〇〇		〃		〃
	四、三〇〇、〇〇		〃		〃
	四、八〇〇、〇〇		〃		〃
	九、九〇〇、〇〇		〃		〃
	一五、〇〇〇、〇〇		〃		〃
	四四、八〇〇、〇〇		〃		〃
	五三、五〇〇、〇〇		〃		〃
	七五〇、〇〇〇、〇〇		〃		〃
	八九、三五〇、〇〇		〃		〃
	九、七五〇、〇〇		〃		〃
	六〇〇、〇〇		〃		〃
	一、六〇〇、〇〇		〃		〃
	三、〇〇〇、〇〇		〃		〃
	一六、八〇〇、〇〇		〃		〃
	一二、六〇〇、〇〇		〃		〃

摘要



海-0008

0249



官房南機密第一五號

極秘

指 令 書

海軍ニ於テハ其ノ軍政擔任地域中南部「ボルネオ」ニ於ケル木材開發
竝ニ製材ノ企業擔當ヲ政府ノ決定ニ基キ貴方ニ委託スルニ付別紙條項
ニ準據シ之ガ開發ニ當ラルヘシ

昭和十九年七月十八日

海軍大臣 野村直邦

印

興南林業株式會社
社長 脇坂清殿

添付書類

- 一、計畫土地附近略圖
計畫土地附近一帯ハ軍ノ機密ニ屬シ作圖等一切
禁ゼラレオルニ付省略
- 二、工場擴充計畫略圖
別紙
- 三、企業整備ニ關スル特殊決裁豫定書
該當事項ナシ
- 四、貸借對照表及損益計算書

臨時株主總會議事録

昭和十九年十一月四日高岡市袋町八拾壹番地當社本店ニ於テ臨時株主總會ヲ開催ス

當會社株主總數貳拾六名株式總數參千九百六拾株

出席株主(委任狀共)拾八名此ノ株式總數參千百拾株

即チ株主數及資本額共ニ法定數以上ナルヲ以テ本總會ハ適法ニ成立定

刻取締役社長脇坂清議長席ニ着キ開會ヲ宣シ議事ニ入ル
議長脇坂清増資ノ必要ナル理由ヲ詳細ニ説明シ全議案一括上程シ滿場
異議ナク左ノ如ク原案通り可決ス

決議

- 一、當會社ノ資本金拾九萬八千圓ヲ八拾萬圓ニ増加ノ件
- 二、右ニ因リ定款第六條中「拾九萬八千圓」トアルヲ「八拾萬圓」ニ
「參千九百六拾株」トアルヲ「壹萬六千株」ニ變更スル件
- 三、北陸組ヨリ左記財産ヲ現物出資シ之ニ對シ左記株式ヲ與フル件
南ボルネオ・バリツクバパン所在ノ土地建物機械其他ノ設備、
器具一
此ノ價格六拾萬貳千圓也
右ニ對シ株式新株壹萬貳千四拾株(但シ一株ニ付五拾圓拂込済
ノモノ)

右決議ヲ明確ナラシムル爲定款第十九條ニ依リ議長及出席取締役、監
査役左ニ記名捺印ス

昭和十九年十一月四日

富山縣高岡市木舟町五拾七番地
興南林業株式會社

議長	脇坂清
出席取締役	鹽谷助太郎
同	熊木林次郎
同	米澤信一
同	古錄磯二
同	太田和
同	吉田福
出席監査役	江守喜一

株主名簿

興南林業株式會社

計 持株數 新引受株數 舊引受株數 住 所 氏 名

二、〇〇〇	一、五〇〇株	五〇〇株	富山縣高岡市袋町八壹番地	脇坂	清
二、一六〇	一、六六〇	五〇〇	富山縣高岡市袋町八壹番地	興林會代表	脇坂
一、二〇〇	九〇〇	三〇〇	富山縣高岡市新湊法土寺壹八壹番地	鹽谷	助太郎
一、二〇〇	九〇〇	三〇〇	富山縣富山市木町六番地	熊木	林次郎
八〇〇	六〇〇	二〇〇	富山縣富山市鍛冶町八番地	金山	謙三
八〇〇	六〇〇	二〇〇	富山縣高岡市新中伏木町參貳壹番地	米澤	信一
八〇〇	六〇〇	二〇〇	石川縣石川郡美川町貳〇壹番地	森田	芳次郎
八〇〇	六〇〇	二〇〇	石川縣石川郡美川町ル壹參五番地	古錄	磯二
八〇〇	六〇〇	二〇〇	石川縣小松市土居原町貳九番地	吉田	福松
八〇〇	六〇〇	二〇〇	名古屋市中區正木町貳丁目壹六番地	太田	和一
四〇〇	三〇〇	一〇〇	富山縣高岡市新湊三ヶ新五番地	江守	喜一
四〇〇	三〇〇	一〇〇	富山縣高岡市新湊法寺壹四九番地	橋本	幸次郎
四〇〇	三〇〇	一〇〇	富山縣高岡市新湊東町七番地	高岡	源藏
四〇〇	三〇〇	一〇〇	富山縣高岡市榮町壹壹〇番地	炭元	徹太郎
四〇〇	三〇〇	一〇〇	富山縣高岡市新横町壹貳五()番地	炭元	嘉作
四〇〇	三〇〇	一〇〇	石川縣能美郡西尾村字尾小屋ワ壹七貳地	傳	清作
五〇〇	三〇〇	一〇〇	名古屋市中區通子通參ノ六六番地	彦坂	健一郎
二四〇	一八〇	六〇	富山縣高岡市伏木本町五九番地	谷内	喜太郎
二〇〇	一五〇	五〇	富山縣高岡市吉久新參貳番地	草島	仁作
二〇〇	一五〇	五〇	富山縣高岡市横田參番地	高田	米次郎
二〇〇	一五〇	五〇	富山縣高岡市開發町壹九番地	橋本	米次郎
二〇〇	一五〇	五〇	富山縣高岡市袋町八壹番地	脇坂	清治
二〇〇	一五〇	五〇	富山縣富山市東岩瀬町六七八番地	海老江	喜作
二〇〇	一五〇	五〇	富山縣富山市堀川町布瀬	田島	榮次郎
二〇〇	一五〇	五〇	富山縣水見郡水見町新町貳四番地	森	寛
二〇〇	一五〇	五〇	富山縣上新川郡大澤野町上大久保 貳壹〇五番地	前田	敬助

一六、〇〇〇 二二、〇四〇 三、九六〇 合 計 二十六名

貸借対照表
 昭和十九年十二月三十一日現在
 興南林業株式会社

借方	借方		貸方	
	科目	金額	科目	金額
土地建物	二二、〇三四	六〇	資本	一九八、〇〇〇
什器備品	二五、七六八	四八	法定積立金	三〇〇
有価証券	四六五	〇〇	借入金	五五八、〇〇〇
現地事業	五九九、四〇一	五九	未拂金	四六、七〇〇
管租費	一〇三、八三八	六七		
假拂金	二、八八〇	〇〇		
預金	四五、八一九	七四		
現金	二、七九一	九二		
合計	八〇三、〇〇〇	〇〇	合計	八〇三、〇〇〇

海-0008

0254

昭和十九年十月 日

一部變更登記簿

定 款

興南林業株式会社

海-0008

0255

興南林業株式會社定款

第一章 總 則

第壹條 當會社ノ商號ハ興南林業株式會社ト稱ス

第貳條 當會社ハ左ノ業務ヲ營ムヲ以テ目的トス

一 南方海軍指令地ニ於ケル木材開發竝ニ製材ノ企業擔當

二 各種木材ノ販賣

三 建築用材ノ賣買

四 建築請負

五 同一事業ノ投資

六 其ノ他之ニ附隨スル一切ノ事業

七 製材業

八 立木賣買並ニ伐採

第參條 當會社ハ本店ヲ高岡市ニ置ク但シ必要ニ應シ支店又ハ營業所ヲ各地ニ置クコトヲ得

第四條 當會社ノ存立期間ハ當會社設立登記ノ日ヨリ滿貳拾ケ年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ延長スルコト

ヲ得

第五條 當會社ノ公告ハ官報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

第二章 資本金及株式

第六條 當會社ノ資本金ハ拾九萬八千圓トシ之ヲ參千九百六拾株ニ分チ壹株ノ金額ヲ金五拾圓トス

第七條 當會社ノ株券ハ總テ記名式トシ壹株券五株券拾株券五拾株券及百株券ノ五種トス

第八條 當會社設立ノトキニ於ケル株金ハ壹株ニ付金拾貳圓五拾錢ヲ拂込ムモノトス

第九條 株式ノ名義書換ヲナサントスルトキハ當會社所定ノ請求書ニ記名調印ノ上株主名簿ニ登録ヲ請ヒ其ノ株券ニ證印ヲ受クヘシ

賣買讓渡以外ノ事由ニ因リ名義書換ヲナサントスルトキハ其ノ事由ヲ證明スヘキ書面ヲ添付スヘシ

第十條 株式ニ付質權ニ關スル登録又ハ其ノ抹消ヲ請求セントスルトキハ當會社所定ノ請求書ニ其ノ株券ヲ添ヘテ差出スヘシ但質權移轉ノ場合其ノ事由ヲ證明スヘキ書面ヲ添付スヘシ

第拾壹條 當會社ハ毎年壹月末日ヨリ定時株主總會終了ニ至ルマテ株ノ名義書換ヲ停止スルコトヲ得

第拾貳條 株券ノ喪失又ハ滅失シタルニ因リ新ニ株券ノ交附ヲ受ケントスルトキハ當會社所定ノ請求書ニ當會社ノ相當ト認ムル保證人ノ連署シタル損害保證書及公示催告手續ニ依ル除權判決ノ謄本ヲ添へ提出スヘシ株券ヲ毀損又ハ汚染シタルモノ及株券ノ分合ノ爲メ新ニ株券ノ交附ヲ受ケントスルトキハ其ノ理由ヲ詳記シタル書面ヲ差出シ新株券トノ交換ヲ當會社ニ請求スルコトヲ得但シ毀損汚損ノ爲メ株券ノ鑑別困難ナルモノハ前項ノ手續ニ據ルヘシ

第拾參條 第九條又ハ第拾貳條ノ請求ヲ爲ス者ハ手数料トシテ第九條ノ場合ニ於テハ株券一通ニ付金五拾錢第拾貳條ノ場合ニ於テハ株券一通ニ付金五拾錢ヲ當會社ニ支拂フヘシ

第拾四條 株主若ハ其ノ法定代理人又ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ株式共有者ハ其ノ氏名及印鑑ヲ當會社ニ届出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同ジ
前項ノ届出ヲ怠リタル者ニ對シテハ通知ノ責ニ任ゼス

第三章 株主總會

第拾五條 定時株主總會ハ毎年壹月本店ノ所在地ニ於テ之ヲ招集ス
臨時株主總會ハ必要アル毎ニ之ヲ招集ス

第拾六條 株主總會ノ議長ハ社長專務取締役又ハ常務取締役之ニ任ス若シ差支ヘアルトキハ他ノ出席取締役之レニ任ス
但シ取締役差支ヘアル場合又ハ商法業貳百參拾五條若クハ第貳百參

拾七條ノ場合ニ於テハ出席株主中ヨリ之ヲ選舉ス
第拾七條 株主ノ議決權ハ壹株ニ付壹個トス

株主ハ株主ニアラサル者ヲ代理人トシテ議決權ヲ行フコトヲ得ス
第拾八條 株主總會ノ決議ハ法令ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外出席

株主ノ議決權ノ過半数ヲ以テ之ヲ爲ス可否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス
前項ノ規定ハ議長ガ其ノ所有スル株式ニ基キテ爲ス議決權ノ行使ヲ妨クル事ナシ

第拾九條 株主總會ノ議事ノ要領及結果ハ議事録ニ記載シ議長並ニ出席シタル取締役及監査役之レニ記名捺印ノ上當會社ニ保存ス

第四章 取締役及監査役

第貳拾條 當會社ニ取締役八名以内及監査役參名以内相談役ヲ置ク

但シ取締役ハ五拾株以上監査役ハ參拾株以上ヲ有スル株主中ヨリ株

主總會ニ於テ之ヲ選舉ス相談役ハ取締役會ニ於テ定ム

第貳拾壹條 取締役ノ任期ハ參年監査役ノ任期ハ貳年トス

但シ取締役及監査役ノ任期カ任期中ノ最終決算期ニ關スル定期株主

總會前ニ滿了シタルトキハ其ノ總會ノ終結ニ到ル迄之ヲ延張ス補缺

選舉ニ依リ選任セラレタル取締役及監査役ノ任期ハ前任者ノ殘任期

間トス

第貳拾貳條 取締役又ハ監査役中缺員ヲ生シタルトキハ補缺選舉ヲ行フ

但シ法定員數ヲ缺カサルトキハ取締役會ノ決議ヲ以テ補缺選舉ヲ行

ハサルコトヲ得

第貳拾參條 株主總會ノ決議ヲ以テ取締役中會社ヲ代表スヘキ者參名以

内ヲ定ム

代表取締役ノ互選ヲ以テ社長暨名專務取締役各暨名常務取締役若干

名ヲ選任スルコトヲ得

第貳拾四條 代表取締役ハ各自會社ヲ代表ス

第貳拾五條 社長ハ一切ノ業務ヲ統率シ專務取締役ハ社長ヲ輔佐シ其ノ

職務ヲ代行ス常務取締役ハ常務ヲ執行ス

第貳拾六條 當會社ノ業務方針其ノ他重要ナル事項ハ取締役會ニ於テ之

ヲ定ム

取締役會ノ招集及取締役會ノ議長ハ社長之ニ當リ社長專故アルトキ

ハ專務取締役之ニ代ル

第貳拾七條 取締役會ノ決議ハ出席取締役ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス可否

同數ナルトキハ議長ノ決スルトコロニ依ル

第貳拾八條 監査役ハ當會社ノ業務及財産ノ狀況ヲ監査スルモノトス監

査役ハ取締役會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第貳拾九條 取締役ハ株主總會ノ認許ニヨラスシテ取締役會及監査役ノ

承認ヲ得テ他ノ會社ノ取締役トナルコトヲ得ルモノトス

第參拾條 取締役及監査役ノ受クヘキ報酬ハ一ヶ年總額金貳萬五千圓ト

シ取締役會ノ決議ヲ以テ之レヲ定ム

第五章 計 算

第拾壹條 當會社ノ計算期ハ一月一日ヨリ十二月三十一日マテトス

第拾貳條 每期ノ損益計算ハ總益金ヨリ總損金ヲ差引キタル殘額ヲ利

益トシテ利益ヨリ前期繰越金及諸準備積立金戻入額ヲ控除シタル殘

額ヲ純益金トス

毎決算期ノ利益金ハ左ノ通り之ヲ處分ス

一 法定準備金 純益金ノ百分ノ拾以上

一 別途積立金 適宜之ヲ爲ス

一 社員退職給與金 純益金ノ百分ノ貳以内

一 役員賞與金 純益金ノ百分ノ貳拾以内

一 利益金ノ内ヨリ前一號乃至四號ニ依ル金額ヲ控除シタル殘額ヲ

以テ株主配當金又ハ後期繰越金ニ充當ス

前項ノ外別ニ各種積立金ヲ爲スコトヲ得

第拾參條 利益配當金ハ株主總會ニ於テ其ノ配當ヲ決議シタル日ニ於

ケル株主ニ歸屬ス

株主配當金ハ其ノ決議ヲ爲シタル株主總會終結ノ日ヨリ五年ヲ經過

シタルトモハ株主ニ於テ請求權ヲ失フモノトス

第六章 附則

第拾四條 當會社ノ株主ハ高岡市ニ存スル株式會社高岡銀行及中越銀

行高岡支店ニ於テ之ヲ取扱フ

昭和 年 月 日

日本郵船株式會社

資金借入許可願

去ル昭和二十年三月三日貴省御斡旋ニヨリ南方開發金庫ヨリ借入レ候當社南方事業ニ關スル人件費、管理費自昭和二十年一月至昭和二十年六月六ヶ月分金貳拾七萬圓也ハ其後夫々其使途ニ使用致シ候就而七月以向一ケ年間ニ要ス可キ資金 四拾八萬七千圓也ヲ別紙豫算書ニヨリ南方開發金庫ヨリ融資相受度候間何卒御許可賜リ度此ノ段奉願候
追而右豫算ハ戦局ノ推移ニヨル當社事業ノ縮少ヲ考慮シ従業員ノ整理減少ヲ斷行シ必要不得已得、經費ノ外ハ極力節約ヲ計リ豫算作製致シ候事
情御諒承被成下度候

昭和二十年六月 日

東京都麴町區丸の内二ノ二〇ノ二(郵船ビル)

日東海運株式會社

取締役社長 市原章 則

海軍省
南方政務部長殿

B5 (4000番 6-19)

海-0008

0260

c				D			
事務費	内 訳	年	額				
需 要 品				送金手数料其ノ他			
備品消耗品費	4,752	00				7,200	00
新聞雑誌	370	00					
筆 紙	2,310	00					
			7,432	計		29,146	00
税 金							
都 民 税	295	00					
配當金ニ對スル分額所得税	87	18					
預金利子	1,116	80		南方事業管理費合計		73,225	46
収入印紙税	127	95					
			1,627				
旅 費 (車馬賃ヲ含ム)			3,270				
通 信 費			5,967				
廣 告 費 (決算報告官報)			50				
運 絡 費			3,600				
雜 費							
年頭年末 例費							
分擔金・寄附金・組合經費分擔金							

南方派遣員経費

昭和廿年六月一日以降一ケ年分

		年	額			年	額
現地在勤員六名家族渡給料			18,300 00	支拂利息			
現地在勤員五名生命保険料			1,172 00	南發金庫			
・ 七名年度手當 (マリヤル 4名 メナド 1名 パラオ 2名)			9,804 00	2,812,000 年利5分	140,614 00		
船舶乗組員家族渡給料				日本郵船株式会社			
① 第一共和丸 1,900.-				600,000 日歩1割1厘	24,090 00		
√ 第六神光丸 1,970.-						164,704 00	
√ 第二神力丸 1,740.-				保 険 料			
√ 十一三寶丸 1,020.-				① 第一共和丸 4,960.35			
√ 第三大商丸 1,800.-				√ 第三昭和丸 9,090.20			
			10,116 00	④ 千歳丸 46,800.00			
船舶乗組員53人賞與家族送金額(見積り)			35,000 00	⑤ 開成丸			
② 船員保険料			6,000 00			60,850 55	
・ 生命保険及戦争保険料			7,500 00	繰備及臨時費			
						100,000 00	
合 計			87,892 00	總 計		486,672 01	

郵員
英米興業内地私
所要經費轉送一件
（ハリクハバン地也 木造船 伐木製材担当）
申請書 審査、結果 不当ナラズ
轉送ノトト致度

海-0008

0265

昭和二十年六月

内地拂資金借入申込書

東京都芝区高輪南町二十八番地
大日本同志會ビル

共榮興業株式会社
(電話 高輪(4)二五〇番)

海-0008

0266

内地 拂資金 借入 申込書

擔保者（氏名） 高輪（44）三、二五〇番

假住所 東京都芝区高輪南町二十八番地
（舊住所 東京都芝区琴平町三番地）

商 號 共 榮 株式會社
代表者 代表取締役 都 宮 良



南方新發金庫

御中

當社擔當ノ南方事業ニ關シ自昭和二十年六月至昭和二十年十一月内ニ支拂ヲ要スル左記資金御款資相受度此段申込候也

記

一、借入金額 金五拾萬圓也

二、資金ノ使途 イ南方逋還要員経費

ロ南方事務管理費

備考 明細書別紙添附書類ノ通り

三、返済期限 期限 一ケ年

四、擔保又ハ保証

五、借入ヲ必要トスル事由

海軍大臣ノ御下命ニ基キ南ボルネオ・バリツクハバ
ンニ於テ木造船建造並ニ林業ノ企業擔當ニ任シ居リ
候處其ノ資金關係ニ於テハ資本金及借入金ノ大部分
ヲ南方事業費勘定ニ投入シ居リ、内地通轉資金ハ常
ニ通追ヲ免レザル事情ト相成居候
依テ當局ノ御許可ヲ得テ昭和十八年二月以來現地ヨ

リノ送金ヲ受ケ、之ヲ以テ南方送遣員ノ内地留守
宅送金並ニ一般管理費ニ充當致シ居リ、又右送金遲
延等ノ場合ハ該送金ヲ見返リトシテ臺灣銀行ヨリ其
ノ都度一時借入ヲ爲シ月々ノ所定ヲ辨シ來リタル實情
ニ御座候、然ル處近來戰局急迫等ノ關係ニテ石送金
ハ兎角速レ勝ト相成候ニ毎月ノ如ク金繰リノ煩ヲ重
ネルノミナラス取近ノ情勢ニテハ更ニ一層ノ難化ヲ
モ豫想セラレ場合ニヨリテハ送金不能ニ近キ狀況ヲ
モ思考セラレ候ニ付今後ハ斯カル種々の方法ヲ以テ
シテハ到底凌ギ得サルモノ可有之ト被存候而カモ内
地戦場化ノ現實ニ即シ會社自体ノ對策ハ素ヨリ各留
守宅ニ對スル保護對策等常ニ臨機ノ處置ヲ失セザル
様ノ資金融制ヲ購シ置キ度茲ニ貴金庫ヲ煩ハシ改メ
テ正規ノ金融ヲ仰ギ度次第ニ御座候

添 附 書 類

- 一、南方送遣要員經費並ニ南方事務管理費明細書
- 一、試算表（昭和二十年四月末現在）及内詳表並ニ資金繰説明書
- 一、現地ヨリ内地回送金実績表
- 一、現地事業ノ大要
- 一、受命關係ヲ證スベキ指令書（二通）

以 上

一ト下リ
三三三〇

科目	内地留守 宅送金 (110名)	疎開及戦 災ニ因ル 臨時費	合計
六月	四九、六〇〇	一〇、〇〇〇	五九、六〇〇
七月	四九、六〇〇	一〇、〇〇〇	五九、六〇〇
八月	四九、六〇〇	一〇、〇〇〇	五九、六〇〇
九月	四九、六〇〇	一〇、〇〇〇	五九、六〇〇
十月	四九、六〇〇	一	四九、六〇〇
十一月	四九、六〇〇	一	四九、六〇〇
合計	二九七、六〇〇	四〇、〇〇〇	三三七、六〇〇

南方派遣委員経費明細書
(自昭和二十年六月
至十一月)

昭和二十年

科 目	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	合 計
役員報酬	三、五〇〇	四、三〇〇	四、三〇〇	四、三〇〇	四、三〇〇	四、三〇〇	四、三〇〇
旅費	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八〇〇	八、〇〇〇
交通費	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四〇〇	四、〇〇〇
印刷費	二、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
手紙料	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
厚生費	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
家賃	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
交際費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
租税公課	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
雑費	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
利息	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
臨時計	八、一〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	一六、一〇〇
計	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	三、五〇〇

南方事務管理費明細書 (自昭和二十年十一月)

海-0008

0270

試算表 昭和二十年四月三十日現在

資産之部											
科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額
現金	一三、一五三	有價証券	一、二六九	立替金	一、五八〇	預納金	四〇〇	敷金	一、四二〇	貯藏品	一、二六〇
備品什器	二〇、二三四	振替貯貯	二、〇七三	假拂金	一、〇三四	銀行勘定	三、九八七	國庫券	五〇〇	國庫貯貯	三、〇三一
進作	一三、一五三	南方事業部勘定	四、一一七	假拂金	一、〇三四	銀行勘定	三、九八七	國庫券	五〇〇	國庫貯貯	三、〇三一
合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇

負債之部			
科目	金額	科目	金額
南方事業部勘定	四、一一七	南方事業部勘定	四、一一七
營業費	一九一、六〇六	營業費	一九一、六〇六
繰越損失金	五〇四、四七〇	繰越損失金	五〇四、四七〇
合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇

資本之部							
科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額
資本	二、〇〇〇	資本	二、〇〇〇	資本	二、〇〇〇	資本	二、〇〇〇
又拂手形	二、一一〇	又拂手形	二、一一〇	又拂手形	二、一一〇	又拂手形	二、一一〇
假受金	三八、一一〇	假受金	三八、一一〇	假受金	三八、一一〇	假受金	三八、一一〇
預り金	九、三四七	預り金	九、三四七	預り金	九、三四七	預り金	九、三四七
細収入	二、一一二	細収入	二、一一二	細収入	二、一一二	細収入	二、一一二
南方事業部勘定	九〇〇、三六八	南方事業部勘定	九〇〇、三六八	南方事業部勘定	九〇〇、三六八	南方事業部勘定	九〇〇、三六八
合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇	合計	五〇、〇〇〇

試算表内詳明細
支拂手形内詳(昭和二十年四月三十日)

手形借入先	手形の種類	振出月日	支拂期日	額	面
金南方 附庫	約束手形	一九一〇一九	二〇四一七	一〇〇	〇〇〇〇
		一〇三〇	四三〇	三〇〇	〇〇〇〇
		一二二〇	六一八	二〇〇	〇〇〇〇
		一二一七	六一五	二〇〇	〇〇〇〇
計(四通)				八〇〇	〇〇〇〇
東臺灣 支鐵店行	為替手形	一九一三三〇	二〇三三〇	五〇	〇〇〇〇
		二〇三六	四六	八〇	〇〇〇〇
		四一七	六三〇	一八〇	〇〇〇〇
計(三通)				三一〇	〇〇〇〇
合計				一一一〇	〇〇〇〇

營業費明細書 (昭和二十年四月三十日)

科目	金額
役員及手報	一一五
旅費	一一二
交通費	一一二
印刷及文具	一三五
手印及文具	一三四
厚利生數	一三二
家利	一三一
交際費	一三〇
租稅	一三〇
雜費	一三〇
合計	一三〇

海-0008

0273

總計	(九) K丸勘定	(八) 海洋組	(七) 臺灣出張所勘定	(六) 立替金	(五) 假拂金	迎日丸勘定
四、一一七、五九六	七四、〇七四	一〇八、二五〇	一七二、四七〇	六〇〇	二六五、一七〇	三四四、七八九
二四	〇九	七九	〇〇	〇〇	二〇	九四〇

資金繰説明書 (昭和二十年六月)

合 計	昭 和 二 十 年 六 月					月 別
	十 一 月	十 月	九 月	八 月	七 月	
五 〇 〇、 〇 〇 〇	六 三、 九 五 〇	六 三、 九 五 〇	七 四、 〇 五 〇	七 四、 八 五 〇	七 五、 五 〇 〇	所 収 資 金 計
三 三 七、 六 〇 〇	四 九、 六 〇 〇	四 九、 六 〇 〇	五 九、 六 〇 〇	五 九、 六 〇 〇	五 九、 六 〇 〇	内 南 方 派 遣 員 経 費
一 六 二、 四 〇 〇	一 四、 三 五 〇	一 四、 三 五 〇	一 四、 四 五 〇	一 五、 二 五 〇	一 五、 九 〇 〇	南 方 事 務 管 理 費

現地ヨリ内地向送金実績表 (昭和二十年四月三十日)

送金年月日	金額	摘要	
昭和一八五二	九六、五七〇〇	内地留守宅送金 自十七年二月分 至十八年三月分	
五二〇	二二、七六〇〇		
六七	二〇、一二〇〇		
六二二	二二、九二二〇		
八二四	二三、二九六〇		
九一五	二九、〇四三六〇		
一〇一二	三〇、七九二二二		
一、九	二九、〇三九八九		
一三二五	二八、〇〇五		十月分内
昭和一九一、二四	二〇、四四七五		十月、十一月分
三、一五	三一、五一〇二五	十二月	
三、一三	九、九八〇〇		

昭和一九五一	一七四、六三三〇	昭和自十八年三月分 至十九年四月分内
六一	二、六〇一七四	
六九	四七、九五〇〇	
七一	四六、九二〇〇	
昭和二〇三、一	二八九、四九二〇	
三、六	二、〇〇〇〇	九月分内
合計	九〇〇、三六八五〇	

現地事業ノ大要

弊社ハ

昭和十七年十月海軍大臣ヨリ南ボルネオ・バリツクババンニ於ケル
木造船企業ノ指定ヲ命ゼラル、ヤ翌十一月内地ヨリ事務取締役鹿山
貞次（昭和十八年七月取締役社長就任）統率ノ下、要員四十餘名
ヲ先發セシムルト共ニ必要ナル資材ノ輸送ヲ開始シ爾來十數次ニ亘
リ要員、資材等ノ輸送ヲ續行致候

既ニ現地ニ於テハ着業以來御當局ノ絶大ナル支援、御指導ニ依リ事
業ハ逐次進展仕リ昭和十八年十月ニハ造船用材ヲ主トスル林業ノ經
營ヲモ委任セララル、ニ至リタルハ、當社ノ海ニ光榮トスル處ニシテ
現地責任者ヲ初メ従業員一同、時局即應ノ体制下、愈々其使命達成
ニ邁進中ニ御座候

而シテ現地ニ於ケル弊社事業ノ内容ハ御當局ヨリ受命ノ

- 一、木造船ノ建造（百五十屯型機帆船、百屯及五十屯型紮船、六十屯型曳船）

一、原木及製材ノ供給

一、浮棧橋ノ建設

一、土木及建築（倉庫瓦製地）

一、原木ノ伐組運送

等各般ニ亘リ居リ、而モ右ハ御要請通り夫々完遂ヲ見ツ、有之候

（此ノ間表彰感状等ヲ受與セラレタル事數回ニ上リタリ）

御最近ノ事業成績ノ詳細ニ就イテハ目下現地ト連絡中ニ付キ詳報

入手次第御報告可仕候

今ヤ戦局ノ緊迫ニ伴ヒ弊社全員亦愈々結束ヲ固メ専心御奉公ノ誠
ヲ致サンコトヲ誓ヒ居ル次第ニ御座候

寫

官房機密第一二三六一號ノ五

指 令 書

海軍ニ於テハ其ノ軍政編任地域タルボルネオ島サンガサンガ或ハ「サ
マリンダ」或ハ「バリツクハバン」ニ於ケル木造船建造企業據置ヲ政
府ノ決定ニ基キ貴方ニ委託スルニ付別紙指示事項ニ準據シ之ガ開發ニ
當ラルベシ

昭和十七年十月二日

海軍大臣 島田繁太郎

寫

官房南機密第二八號ノ二

指 令 書

海軍ニ於テハ其ノ軍政編任地域中南「ボルネオ」地ニ於ケル主ト
シテ造船用材ノ伐採及製材ノ企業據置ヲ政府ノ決定ニ基キ貴方ニ委
託スルニ付別紙條項ニ準據シ之ガ開發ニ當ラルベシ

昭和十八年十月一日

海軍大臣 島田繁太郎

開南造船株式會社取締役社長

鹿山貞次 殿

内地拂資金借入申込書
昭和廿年六月廿五日

南方開發金庫

御中

擔當者 電話小金井 一三〇番
氏名 大野 茂

東京市豊島区
荒川町一丁目一五番地
積株式會社

古川 義



當社擔當ノ南方事業ニ關シ自昭和貳拾年六月至昭和貳拾年拾壹月間内地拂ヲ要スル左記資金御融通相受度此段申込候也

一 借入金額 九萬壹千八百圓也

二 資金ノ使途

(1) 南方派遣要員内地留守宅生活資金

備考 明細別紙添付書類ノ通リ

三 返済期限及方法

(1) 期限 一ヶ年

(2) 方法 現地ニ於ケル余裕金ノ送金ニ依ル

四 擔保又ハ保證

古川義三個人保證ニ依ル

五 借入ヲ必要トスル理由

弊社ハ比律實地區ニ於テ陸海兩軍ヨリノ受命事業遂行ノ爲弊本社所在地ダバオニ於テ多數ノ邦人職員及従業員ヲ擁シ戦力増強ニ寄與シツ、アリシガ近時比律實ガ直接敵反攻地ニトナリ先般終ニダバオトノ連絡途絶シ之ガタメ從來ダバオヨリ直接各職員並ニ従業員ヨリノ内地往住ノ家ヲ留守宅宛ニ生活資金ノ送金ハ中絶シ其ノ困窮ヲ解スルモノヲ生ズルニ及ベリ 然ル所弊社ハ内地資金ノ財源ナキタメ到底上述ノ支出ヲ維持得ザル状態ナルヲ以テ此段御融通ヲ申込ミタル次第ニシテ現状ヲ考慮致シ差當ツテ六ヶ月間分一括申請シタルモノナリ

添付書類

- (一) 南方派遣要員内地留守宅生活資金明細書
- (二) 最近ノ資金繰説明書及ビ試算表
- (三) 現地ヨリ内地向送金実績表
- (四) 現地事業ノ大要
- (五) 受命關係ヲ證スベキ書類ノ寫

南方派遣要員内地留守宅少活資金一括表

一ヶ月分計

自昭和二十年六月間計
至昭和二十年十一月

職 員	二五名	七、〇〇〇圓	四二、〇〇〇圓
従業員	二八名	八、三〇〇圓	四九、八〇〇圓
合 計	五三名	一五、三〇〇圓	九一、八〇〇圓

添附書類(一)

南方派遣要員内地留守宅生活資金明細書

職員之部

氏名	金額	受取人住所氏名	氏名
杉本英三	五〇〇圓	芦屋市轄道町八七 古川義三方	杉本英三
寺林元三	五〇〇〃	京都市上京區千本通寺内南入花車町	寺林節子
勝山壽郎	五〇〇〃	神奈川縣片羽町西ヶ原 稻原勝治方	勝山美子
植田理督夫	一〇〇〃	千葉縣安房郡千歲村久保 植田クニ方	植田順子
横川信介	五〇〇〃	愛媛縣松山市通町二九 武内好將方	横川幸子
井原安四郎	四〇〇〃	靜岡縣三島市澤地四二四	井原イネ
喜田芳男	四〇〇〃	東京都赤坂區青山町六丁目一〇八	喜田、フ
大柴文男	五〇〇〃	和歌山縣那賀郡山崎村中野黒木一二四	大柴初平
萩原敏男	五〇〇〃	茨城縣眞壁郡太田村西方	萩原勝藏
西園元長	二〇〇〃	福岡市多賀福海野町五一八、一	西園長三郎
田村信幸	三〇〇〃	和歌山縣那賀郡山崎村中野黒木一二四	田村勝初

楠山 節	三〇〇〃	和歌山縣田邊町上屋敷町大濱通	楠山傳三郎
松井治男	三〇〇〃	東京都世田ヶ谷區北澤二、一三七	松井秀五郎
村井重和	二〇〇〃	滋賀縣伊香郡南富水村高月二八	村井重三
赤羽日男	一〇〇〃	長野縣上伊那郡伊那富村大字赤野一六六九	赤羽卷太郎
木場三男	二〇〇〃	熊本縣菊池郡城北村字宮原	木場仁彦
猿渡武俊	二〇〇〃	台灣新竹州桃園郡桃園街大樹林二一	猿渡吾吾
杉村英策	二〇〇〃	滿洲國新京市順天區蕙光路六〇二	杉村アキ
柴原保雄	三〇〇〃	埼玉縣北葛飾郡幸松村八ノ八四四	柴原之介
川北竹男	二〇〇〃	愛知縣丹羽郡岩倉町大字下市場	川北金藏
鈴木四郎	一〇〇〃	靜岡縣志田郡島田町七丁目七六八七	鈴木敏郎
林滋椿	一〇〇〃	台灣台中市樹子脚一八一	林才
宋瑞雲	一〇〇〃	台灣台南州新豐郡仁德庄大甲六〇九	宋瑞雲
山崎作藏	二〇〇〃	石川縣河北郡笠谷村字杉畑	山崎作太郎
楠本久富	一〇〇〃	朝鮮京城府中區芝野町一ノ九一	楠本忠

從業員之部

氏名	金額	受取人住所氏名
岡本儀一	三〇〇圓	大阪市西成區梅通二丁目二
田子龜一	三〇〇	大阪市平野區林寺町四丁目一七〇
淺井榮二	三〇〇	神戸市兵庫區上澤通一丁目七ノ五 水井末一方
板津清造	三〇〇	三重縣南牟婁郡相野谷村字相原七九五
越智豐志	三〇〇	愛媛縣越治市高砂町三丁目 村上鹿三方
松岡 忠	三〇〇	愛媛縣越智郡盛口村字井口四七〇
安原留之	三〇〇	滋賀縣高島郡安曇郡西方木九四六
内藤 夫	三〇〇	大阪市平野區林寺町四丁目一七〇
井上德藏	三〇〇	滋賀縣高島郡本庄村字南舟木 井上德藏方
西村 實	三〇〇	大阪市平野區猪飼野町一〇丁目一九
中村金十郎	三〇〇	尾張一宮市外今伊勢町西名栗一六
今井清慶	三〇〇	本神戸字南矢龍寺二四
入鹿虎一	三〇〇	大阪市城東區放久町三丁目八八三 赤川善一方
		入鹿正枝

柴田光雄	三〇〇	大阪府泉大津市助松五〇三	柴田さかゑ
水野一義	三〇〇	大阪市東區徳井町二丁目五	水野さかえ
奥田留之	三〇〇	大阪市城東區南中濱町三丁目一七〇	奥田 始
篠島二郎	三〇〇	富山縣東礪波郡小田村字竹林八五七	篠島みさお
七岡 福雄	三〇〇	徳島市美馬郡八千代村字佐大戸一二三 田中金太方	七岡政江
玉岡 義雄	三〇〇	大阪市浪速區元町四丁目二八九	玉岡しやう
細澤嘉雄	三〇〇	大阪市東成區深江町中一丁目一六	細澤 嘉雄
中東庄一	三〇〇	大阪市浪速區東神田町八六五	藏野満子
松浦豊藏	三〇〇	大阪市東住区平野大通四六	松浦なみえ
松井福三郎	三〇〇	京都市山科音羽稻芝町	水山葉津
酒井 雪人	三〇〇	大阪市城東區鴻野町六四二	酒井あや
高橋秀太郎	三〇〇	滋賀縣上郡豊郷村四九院	高橋伊之助
鈴木初男	二〇〇	大阪市福島區上福島北四丁目六八	鈴木ナエ子
森本小三郎	三〇〇	大阪市北區兔我野町三三	森本寅太郎
森本三次	三〇〇	大阪市北區兔我野町三三	森本寅太郎

總計 五三名 一五・三〇〇圓

以上

添付書類(二)

最近ノ資金繰説明書及ビ試算表

一、内地ニ於ケル最近ノ資金繰状況
東京ト張所ニ於ケル現金在高及銀行預金合計高ノ昨年未並本年五月末ヲ比較スレバ左ノ如シ

昭和十九年十二月末 一〇二、七三二、三六
昭和二十年 五月末 一三三、四三一、四八

二、昭和二十年五月三十一日現在東京ト張所試算表左ノ如シ
弊東京ト張所ハ内地ニ資金ノ財源ヲキタメ本資金ヲ以テ一切ノ會社關係内地支拂ニ充當シツ、アリ現地ヨリノ送金不可能ナル今日右資金ハ減少ノ一途ヲ辿ルモノナリ

借方之部	五、一八、九〇四、九七
銀行勘定	一、三二、一九四、七五
現金	一、二三六、七三
合計	六五二、三三六、四五

貸方之部	三二九、八七八、四五
本 勘 定	三二〇、〇〇〇、〇〇
南方開發金庫勘定	二、四五八、〇〇
假 受 金	六五二、三三六、四五
合計	六五二、三三六、四五

以上

添附書類(五)

艦本機密第一二號ノ一〇九二〇

昭和十八年八月十三日

海軍艦政本部總務部長

古川拓殖株式會社社長 殿

南方占領地域ニ於ケル機帆船修理工場經營ニ
關スル件示達

タバオ市ニ於ケル機帆船修理工場ノ經營ヲ貴社ニ指定セラレタルニ
付別紙指示事項ニ準據シ速ニ所要ノ施設及人員ヲ整備シ作業ヲ開始
相成度

(別紙指示事項添)

(終)

